



ヘルプ



MX RPi Openbox Remix

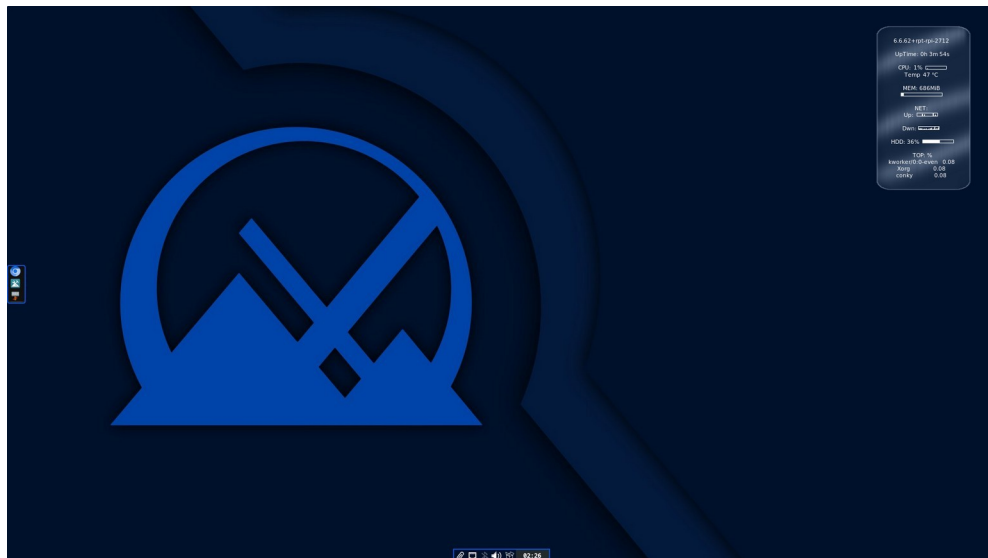
デフォルトユーザー: **mxob**

デフォルトパスワード: **mxob**

この**非公式**MX-23 OpenBox Respinは、Debian 12 (Bookworm) ベースのMX-23 Official Raspberry Pi Respinを、Xfceの代わりに[Openbox](#)で統合したものです。

このOSでは、ディスプレイサーバーとしてXorgが必要です (= デフォルト)。

Waylandでは動作しません。



デフォルトのデスクトップ

- 左中央: ドック (色合い2)
- 右上: デスクトップシステム情報 (コンキー)

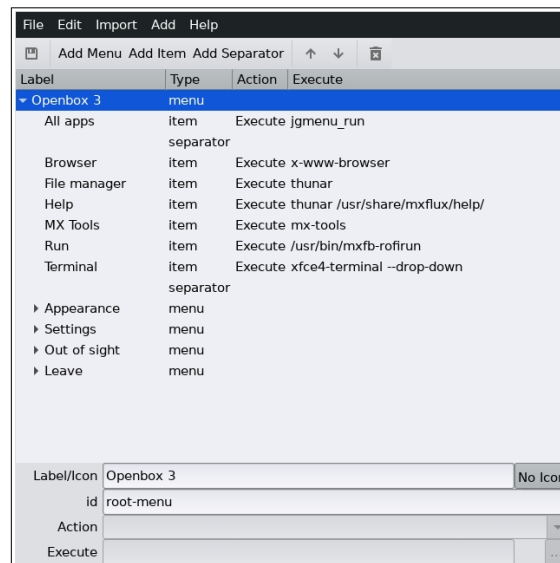
- 中央下: システムトレイ (*stalonetray*) と時計 (*tdc*) のある通知領域

開始: デスクトップ上の任意の場所で右クリックし、ルートメニュー (以下「**メニュー**」) にアクセスします。

openboxの基本設定 (~/.config/openbox/)

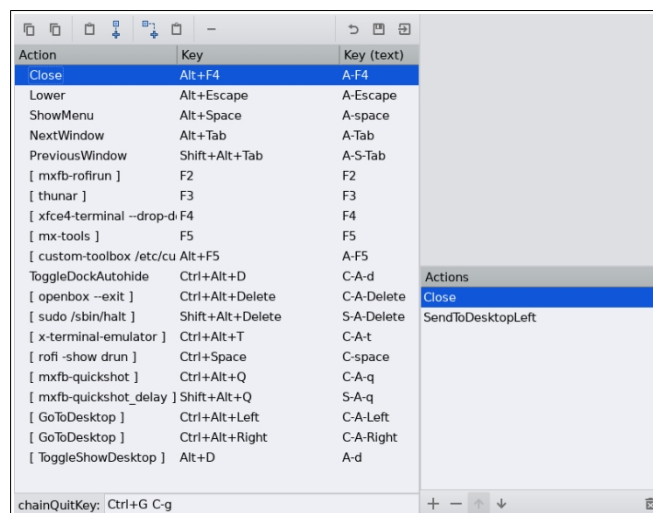
- **オートスタート**: セッションの開始時に開始されるプログラムは、このフラットファイルに一覧表示されます。このフラットファイルは、**メニュー > 設定 > オートスタート**をクリックすることで、簡単に理解でき、直接編集できます。
- **menu.xml**: ユーザーが選択したアプリケーションの静的または固定メニューは、次のように管理すると便利です。

メニュー > 設定 > メニュー > デスクトップメニュー (*obmenu2*)。その他のメニューについては以下を参照してください。



*menu.xml*を開いたメニューエディター

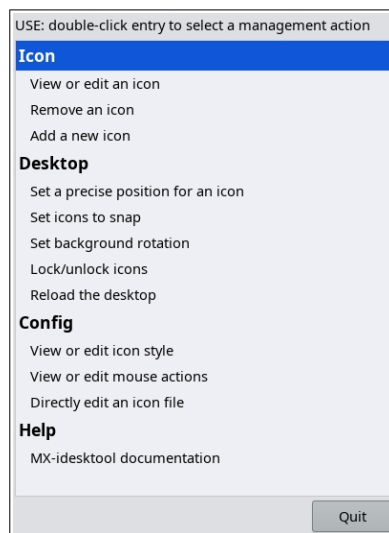
- **rc.xml**: Openboxの設定と動作のメイン設定ファイルです。**メニュー > 設定 > キー** (*obkey*)で簡単に管理できるキー（別名ショートカット、キーバインド）も含まれています。



すぐに使える鍵管理ツール

デスクトップのアイコン

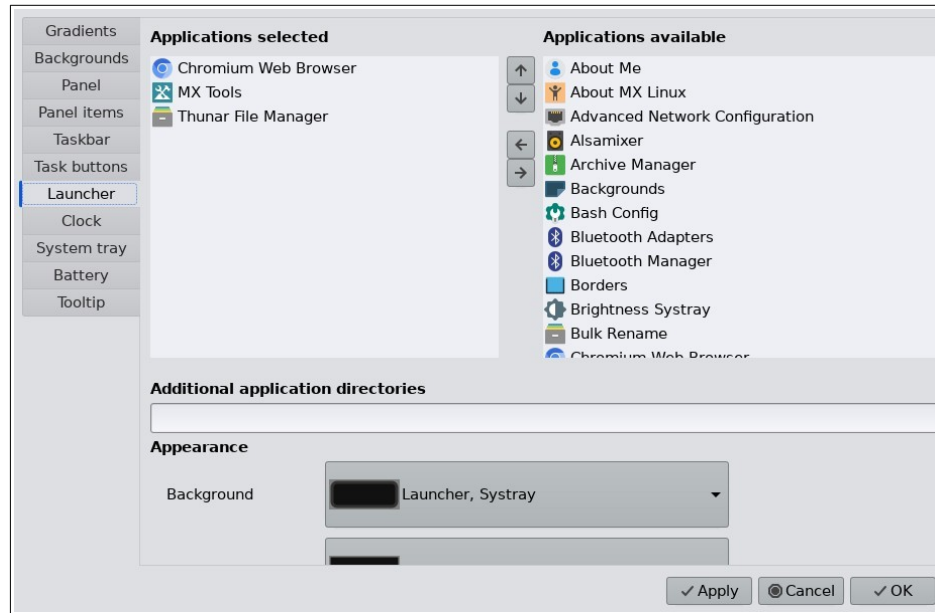
デスクトップアイコンは*iDesktool*で設定・管理することができます。iDesktoolはMX Linuxの開発者とユーザーによって、以前のアプリを改良・近代化したツールです：**メニュー > 外観 > デスクトップアイコン**。このツールは、Openboxのようなウィンドウマネージャでのデスクトップアイコンの使用を非常に容易にします。このツールは非常に簡単で、ほとんど疑問は生じず、[詳細なヘルプファイル](#)でサポートされています。



*iDesktool*のメイン画面

ドック

デフォルトのドックは[tint2](#)が提供する。設定**メニュー > 設定 > ドック**。テーマの一覧で *basic-dock-tint2rc* を選択し、左の列で「ランチャー」をクリックします（下図）。中央の列の矢印を使用して、選択したアプリケーションを追加、削除、再配置します。

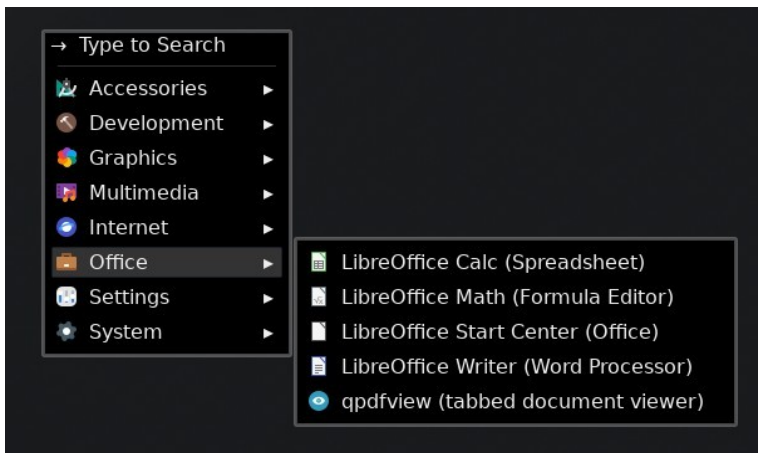


アプリのオプションを表示するドックマネージャー

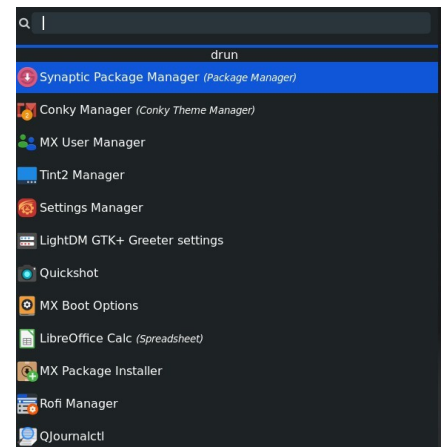
メニュー

スタティック・メニューの他に、ユーザーの好みに合わせて2つのメニューが用意されている：

- **すべてのアプリ** (*jgmenu*) は、静的なルートメニューの一番上のエントリで、カテゴリ別に整理されたインストール済みのアプリケーションに簡単にアクセスできます。アプリを直接検索するには、一番上の検索ボックス（「検索」という文字が表示されたまま）をクリックし、名前または説明的な用語を入力します。設定：**メニュー** > **設定** > **メニュー** > **すべてのアプリ** (*jgmenu_run*)。詳細は[jgmenu概要](#)で。
- **Rofi**には、**Ctrl + Space**キーでアクセスできる：*Ctrl + Space*。他の機能もあるが、ここでは主にアプリランチャーとして使う。アルファベット順に表示されますが、よく使うアプリはリストの一番上に表示されます。設定：**メニュー** > **設定** > **メニュー** > **Rofi** (*mx-rofi-manager*)。詳細は[MX Wiki](#)をご覧ください。



サブカテゴリーを表示した「すべてのアプリ」メニュー



Rofiメニュー (*dmenu*)

ローカライゼーション

- **静的メニュー**。デフォルトの静的メニューは、ユーザのロケールに適切なものが
`/usr/share/mxob/menu-translations`に存在する場合、[DeepLによって生成された翻訳](#)で配信されます。
- **すべてのアプリとRofiメニュー**。NameとCommentのローカライズは、

/usr/share/applicationsにある個々のデスクトップファイルに依存します。

通知領域

通知領域を作成するために、2つの独立した非常にシンプルなアプリが使用されています: stalonetray と *tdc*。これらは別々に隠すことができます: **メニュー > Out of sight > Notification area**.これらのアプリの設定は、メニュー > **設定 > 通知領域**をクリックして調整できます。

通知領域の装飾は obconf-qt で選択されたテーマによって決定されます。tint2 を使えば、**オートスタート**で *dock-basic-tint2rc* を起動し、それに応じてメニューエントリを調整することもできます。

構成

まず最初に

基本設定は、Raspberry Piの便利なアプリを使って変更することができます：**Menu > Settings > Raspberry Pi > Basic setup** (*rc_gui*).

- ユーザーパスワードを変更します。高度な変更には**MX User Manager**を使用してください。
- 正しい時刻フォーマットを設定します。高度な変更には**MX日付と時刻**を使用してください。
- デスクトップのローカライズを設定します。高度な変更には、**MXシステムキーボード**ま

たは**MXロケール**を使用します。完了したらログアウトし、再度ログインしてください。

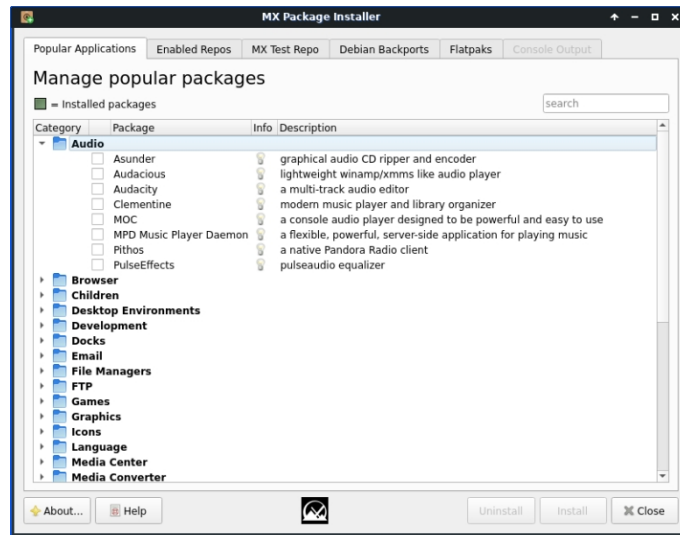
ソフトウェア

このRespinには基本的なアプリがインストールされていますが、電子メールクライアント、音楽アプリ、ビデオプレーヤー、オフィススイートなど、他のソフトウェアを追加するかどうかはユーザーの判断に委ねられています。便利な**MXパッケージインストーラー**

> 人気アプリケーション」タブは、スピード、機能性、安全性において、このタスクに非常に適している。より詳細なパッケージ操作は、Synapticを使って行うことができます。

注意：パッケージの不具合やシステムの不安定化を避けるため、デフォルトのリポジトリ以外からのソフトウェアの追加には十分注意してください。

利用可能なパッケージのアップグレードは、システムトレイのワイヤーボックスが透明から緑に変わり、デスクトップに視覚的に通知されます。ボックスを右クリックすると環境設定やオプションの表示や変更ができ、ボックスを左クリックするとアップグレードプロセスが開始されます。



オーディオデバイスが選択されたパッケージインストーラ

インターネット

MXリナックスは、WifiまたはLAN接続を自動検出するようにあらかじめ設定されており（Network Manager）、ほとんどの場合、システムトレイのアイコンをクリックして、必要なアクセスポイントを選択するだけです。

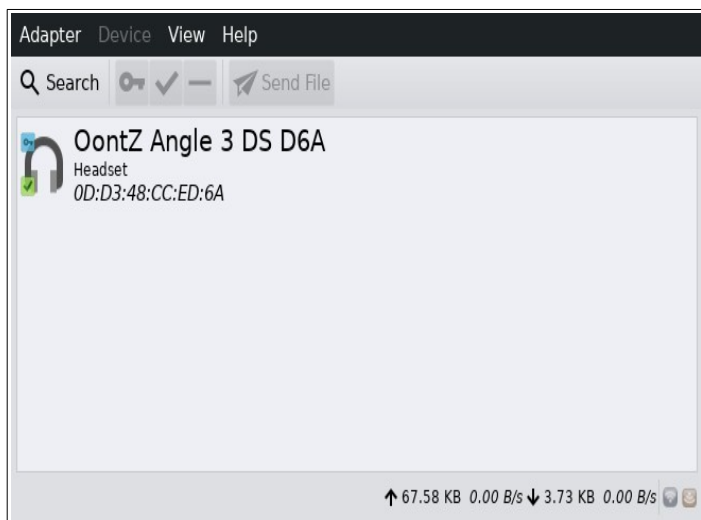
トラブルシューティング

- **MXネットワーク・アシスタント**は、ネットワークカードからウェブの問題まで、接続の問題を特定することができます。
- **高度なネットワーク構成**では、多くの接続の詳細にアクセスできます。

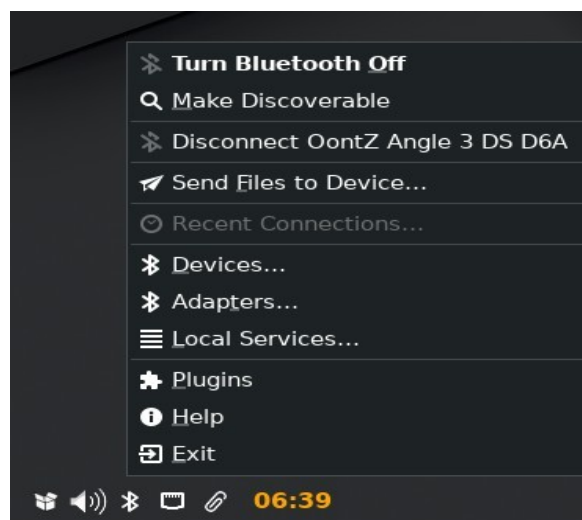
ブルートゥース

Bluetoothを有効にするには（内蔵または外付けのBluetoothアダプタがある場合）：

- 必要に応じて、デバイスを検出可能にする。
- システムトレイのアイコンを左クリックしてBluetooth Managerを起動します。
- 検索 "ボタンをクリックしてデバイスを検索します。
- デバイスのアイコンを右クリック > **ペアリング**、またはボタンバーを使用します。
- もう一度右クリック > **信頼**、またはボタンバーを使う。
- すぐに切断される場合は、アイコンを左クリックして再接続するか、Bluetooth Managerを使用するか、単にログアウトして再接続してください。それでもうまくいかない場合は、Bluetooth Managerでデバイスのアイコンを右クリック > **接続します**。
- 次にログインする際、デバイスの電源がオンになると同時に自動的に接続されるはずですが、そうでない場合は、システムトレイのアイコンを右クリックして、最近の接続を有効にしてください。



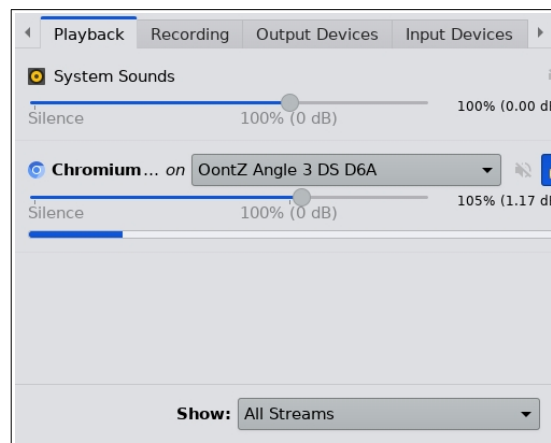
デバイスが見つかり、ペアリングされ、信頼されました。



シストレイアイコンの右クリックメニュー

サウンド

- スピーカー（またはヘッドフォン）の電源が入り、有効になっていることを確認します。
- システムトレイのスピーカーアイコンを左クリックし、プルダウンメニューを使用してスピーカーを変更します。
- ストリーミングサイト、audaciousのようなインストールされた音楽アプリ、または他のソースを再生してテストします。
- スピーカーのアイコンの上にカーソルを置いたまま、上下にスクロールして音量を調整します。
- また、スピーカーアイコンを右クリック > ミキサー (*pavucontrol*) を開き、再生タブをクリックし、プルダウンメニューを使って出力を変更する必要があるかもしれません（Chromiumを使用している場合など）。
- ヘッドフォンかスピーカーを選択するオプションがあります：**設定 > Raspberry Pi > 詳細設定**。



ミキサーでの再生を変更する

スクリーン

設定。 Menu > Settings > Display (*raindrop*) を使用します。詳細は[Raspberry Piのドキュメント](#)を参照してください。

ブランキング。 Raspberry Pi Configでブランキングを設定してもテストではうまくいかなかったため、[xset](#)画面が空白になるまでの非アクティブ秒数（デフォルト：600秒）を変更するには、メニュー >

設定 > 自動起動をクリックし、"`xset -dpms...`"で始まるエントリーを見つける。

即座にスクリーンを消すには、**F12**を押す。キーボード操作でスクリーンは元に戻る。

テーマと壁紙

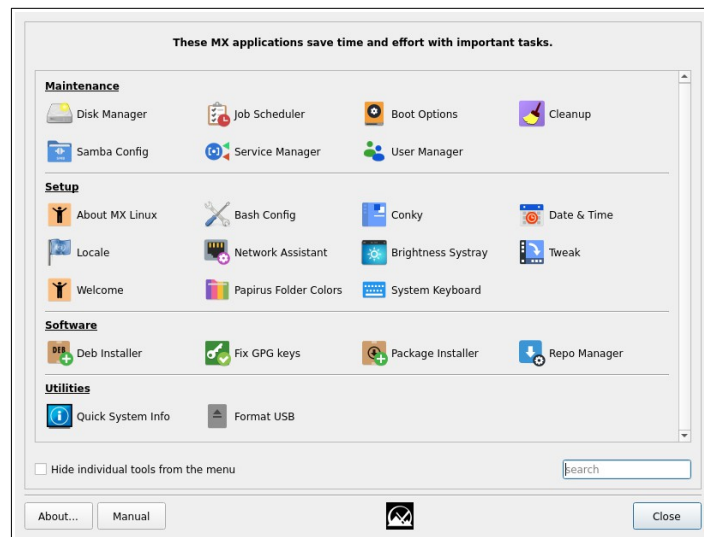
一定数のOpenboxテーマがシステム全体で使えるように`/usr/share/themes`に用意されています。他にも多くのテーマがオンライン上にありますので、ダウンロードして解凍し、自分のリソース `~/.themes` に追加してください。**メニュー > 外観 > テーマ**で管理できます。

壁紙は**メニュー > 外観 > 壁紙**で選択し、`feh-setbg`で管理します。`feh-setbg`の設定（検索場所など）は `~/.config/feh/feh-setbg.conf`にあります。

MXツールズ

MX Linuxが開発したこの特徴的なツール・コレクションには、**メニュー > MX Tools**から、またはF5キーで簡単にアクセスできます。ツールコレクションの説明と詳細については、メニュー > **ヘルプ > ユーザーマニュアル**（またはShift + F1）をクリックし、セクション3.2に進んでください。

ユーザーは、これらのユニークで役立つアプリを使いこなすことをお勧めする。



MXツールダッシュボード

その他

- 実行中のシステムは**SD Card Copier**というアプリでコピーできる。代わりに*.imgファイルを作成するために、RPiフォーラムのメンバーRonRによって[便利なツールセット](#)が開発されました。
- スワップサイズは、特にメモリが少ないPi 3Bなどでパフォーマンスに影響します。デフォルトではRAMの2倍に設定されていますが、Raspberry Piでは[以下の分かりやすい説明に従って](#)調整することができます。
- リソース
 - MX Openboxバージョン：MXフォーラムを利用し、MXプログラムに関する質問はユー

ザーマニュアル（Shift + F1）を参照してください。

- オリジナルのOpenboxバージョン（3.7）：Openboxのホームページを参照してください。多くのリンクが壊れており、そこにリストされているアプリのいくつか（例えば *obamenu*）はもはや存在しないかインストールできないかもしれないことに注意してください。

V: 20241210